

THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION

いい人・いい音

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団

第21号

2016年1月4日発行

発行：明治安田クオリティオブライフ文化財団
 編集：専務理事 佐藤 正 俊
 住所：〒160-0023
 東京都新宿区西新宿1-9-1
 TEL:03-3349-6194
 FAX:03-3345-6388
<http://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp>

言葉の壁



慶應義塾大学名誉教授・音楽学

三宅 幸夫

(当財団音楽分野選考委員)

海外研修にとって最大の障壁となるのは、なんといっても外国語の習得でしょう。正式に大学に籍を置くこととする場合は、なおさらのことです。

むかしのことですが、私の知人に「行けばなんとかなるさ」と豪語してドイツに出かけた男がいました。

入学試験での実技は難なくパスしたものの、つづく簡単な口頭試験で立ち往生してしまったのです。「この音程は？」という質問で、答えも「長6度」とわかっていただけですが、ドイツ語のグローセ・ゼクステが出てこない。「長」をグローセ（大きな）、「6度」を他ではあまり使わない用語ゼクステと知らなければ無理

もありません。

その男、やむなく指を6本突き立てたところ、さらに「6度にも2種類あるだろう」と訊かれて、とっさに両手をいっぱい広げたそうです。それでも結果は合格というのですから、なんともおおらかな時代でした。

こうして入学試験の関門を突破しても、学生登録や住民登録、さらには住居を借りる大家との交渉など、言葉には大いに悩まされます。日常生活を営むうえで欠かせない買物も、スーパーで済ませないかぎり、その土地の言い回しがどうしても必要になってきます。

ただ、これらの言葉は必要に迫られて自然と身についてゆくもので、ことさらに勉強するまでもありません。それよりも重要なのは話している相手の、現実の状況にとらわれな「抽象的な思考」をいささかなりとも理解することにあるのではないのでしょうか。

それを実感したのは、故エディット・ピヒトIIアクセントフェルトの

レッスンに同席させてもらった時のことです。1時間ほどのレッスンは、シューベルト「ピアノ・ソナタ第18番ト長調」の冒頭楽章にあてられていました。彼女は技術的な問題にほとんど触れず、自分でもピアノを弾きながら、ひたすら自分はこの音楽をどう捉えるかを語ってゆくのです。まだ若かった私は、この堂々めぐりの楽想に閉口していたのですが、彼女のゆたかな言葉と演奏に、まさに目を見開く思いがしたものでした。

ベートーヴェンの構築性とは異質の世界……彼女は光や雲といった文学的な比喩を駆使して、シューベルトの不定形（アモルフ）な世界を指し示してくれました。レッスンで使う言葉のほとんどは、カンを働かせば理解できるでしょう。ただ話が抽象的な思考の領域に入ってくると、そこでは正確な言語能力が要求されます。これが本当の「言葉の壁」というものではないでしょうか。

「海外音楽研修生費用助成」の

二〇一六年度申込受付を開始

助成の趣旨等

当財団は、一九九一年六月の設立以来、「クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成」を目的として海外音楽研修や海外音楽コンクール参加のための費用の助成を行ってきました。過去25年間の助成対象者数は、合計170名です。

二〇一六年度は、「海外音楽研修生費用」の助成希望者を公募いたしますので、助成を希望される方は主な音楽大学や音楽指導者宛に送付した「申込要領」または当財団のホームページをご覧いただき、4月8日（金）までにお申し込み下さい。

1. 助成の趣旨

わが国のクラシック音楽文化の向上のため、国際的音楽家を目指して研鑽中の若手音楽家に対し、海外、特に欧米への留学に必要な費用の助成を行います。

2. 助成対象

海外の教育機関等に留学し、技術を練磨するとともに、その実体験を通じてさらに研鑽を深めることを志す方。（対象とする専門分野は、声楽・器楽）

原則として音楽大学卒業（予定）者および大学院在籍者・修了（予定）者

・声楽は一九八三年九月一日以降、器楽は一九八八年九月一日以降に生まれ方。

・海外留学についての計画と目標が明確である方

・二〇一六年から二〇一七年十二月末までに申込書に記載された教育機関等に入学が可能な方

・研修目標の達成に必要な語学力を有する方

※ 既に海外に留学中の方も対象になります

3. 助成対象人員

・4名程度

4. 助成金額

・年額200万円

・助成期間は原則2年

申込手続書類等

1. 申込書

・所定用紙による。

2. 推薦書（2通）

・2名の方の推薦が必要。

・推薦書には、次の項目を必ず記入のこと。①あて先（当財団名）②被推薦者（応募者）の氏名、③推薦理由、④作成日（3ヶ月以内）、⑤推薦者本人の署名。

3. 録音資料および録音証明書

(1) 録音資料

・本人の演奏を収録したオーディオCDまたはM/Dを提出のこと。（ピアノ

および管楽器の一部については楽曲の指定あり、詳細は申込要領にて確認のこと）

・二〇一五年七月以降に録音された演奏であること。

・応募者本人の演奏が明確に聴き取れる録音状態であること。（声楽の重唱・器楽の重奏等、個々の演奏者を識別しにくい録音は審査の対象外）

・オーディオCD（またはM/D）は録音した曲目の楽曲構造に応じて、分割（トラック分け）し経過時間を記入のこと。

(2) 録音証明書

・応募者本人の演奏であることを、伴奏者（個人または団体）、演奏会主催者、録音スタジオや録音エンジニア等の録音に立会った関係者が書面により証明のこと。

・証明書には、次の項目を必ず記入のこと。①演奏者氏名、②録音日時、③録音場所、④曲目、⑤証明者の住所と電話番号、⑥証明書作成日、⑦証明者本人の署名。

日程

1. 申込期限

・4月8日（金）必着（申込書類は簡易書留便による郵送を原則とします）

2. 選考日程

・第一次選考（書類・録音資料審査）は4月下旬

・第二次選考（第一次選考通過者に対する実技および面接）は5月27日（金）

【開催地 東京・新宿】

3. 結果発表

・6月上旬

選考方法

当財団の選考委員会で厳正に審査の上、助成候補者を選出し、その後、理事会の承認を経て助成対象者が決定されます。

詳細については、「申込要領」または当財団のホームページ

(www.meijiyasuda-gol-bunka.or.jp) をご参照下さい。

い。

海外音楽研修生レポート

「目標、変更！」



(13年度助成・声楽)
谷垣 千沙

(留学先・シユトゥットガルト音楽大学)

環境への順応性はまづまず。身体も強い。お腹もちよつとやそつとの事では壊さない。対人関係もなかなか上手に作れる方だと思ふ。こういう身体、性格(こんなお気楽な!)に育ててくれた両親になんといつても感謝したい。私が決断したことにも応援してくれる。ありがとう。

最近、あるドイツリート・デュオのコンクールをクラスメイトのピアノリストと受けた。彼女はカタリナといつて、勤勉で、歌は初心者だからと言いながらも

色々アドバイスをくれる、ユーモアも兼ね備えたドイツ人。彼女と多くの時間を共にし、教授のレッスンに耐え(レッスン内容は本当に本当に素晴らしいけれど、私達はなんといいか耐えなければならなかった、笑)、そしてコンクールに臨んだが、最終的に満足のいく結果には終わらなかつた。講評を聞きに行くと、好意的な言葉をくれる人もいたが、ある審査員には手厳しく言いつつ放たれた。それを(悲観的に!)まとめると、「外国人にドイツリートは歌えない。」その場で涙が流れた。自分は何をしにドイツに来ているのか、今までの2年間半(日本での学業を含めるともっと!)はなんなんだから!!と。その後、頭の中はそのことについてばい。出口は見え堂々巡りの毎日。しばらくして教授と話が出来たのだが、私の悩みを完璧に見抜いていた彼は私を笑つてなだめてくれた。「それはただの1つの意見だよ。きみにはドイツ人の声が出るわけがないよ。だつてチ

サは日本人なんだから! 物理的に無理だろう?」それまでドイツ人と同様に歌うことを目指していた私は、ゴールを置き間違えていたことに気が付いた。私はドイツ人になり得ないのだ。外国人でも素晴らしいリートを歌う歌手だつて居る。そんな事とうに分かつていたのだけれど。でも目から鱗だつた。これからの私の目標が決まつた。

ドイツ鉄道、ドイツ郵便、名前にドイツと付くものに散々困らされたこともあったけど、ここは過ぎしやすい。近い友人には「きみは本当に日本人かい?」だつてチサはtech(生意気、ずうずうしい)だから!とウイックまじりに言われたり。これからも日本人の奥ゆかしさと、多少のずうずうしさをもつて残りの勉学に励みたい。

2016年2月にカタリナが来日し、東京そして地元・関西でドイツリート演奏会の予定がある。そこでドイツでの勉強の成果を聞いていただけたらと思つて居る。

このドイツという地で音楽に没頭させて頂けるのも、貴財団のご支援のもと叶っています。心より感謝申し上げます。

「国境なき音楽を目指して」



(13年度助成・チェロ)

藤井 淳子
(留学先・アウクスブルク大学
レオポルド・モーツァルト
・センター)

私は今ドイツ・アウクスブルグの音楽学校でマイスター(修士)の学生の二年生をしています。

マイスターでは実技の授業がメインなのでその他の授業は多くても週に一回しかなく、チェロの勉強に集中ができて大変助かっています。またそのおかげで去年1年間ドイツで初リサイタルの開催、その他のコンサートやマスタークラスへの参加、国際コンクールへの出場も果たしました。このような行事は学校の勉強の一環としてのちに単位になるので、こういった形で学校側が私達の音楽活動をサポートしてくれるのは大変素晴らしいことだと思います。

他にも学校では自由にコンサートを開くことができ、

日付と時間さえ合えばいつでも学校のメインホールを借りることができ、コンサートの方も作ってもらえます。そしてコンサート当日にはほぼ満席になります。もともとアウクスブルグはモーツァルトの父の故郷であるくらいにドイツの中でもクラシック音楽愛好家がとても多く、こういった学生のコンサートは無料で聴くことができるので皆さん喜んで聴きに来ます。

アウクスブルグは街全体がとても芸術的で、古く美しい街並みとクラシック音楽とが調和し、ここに住む私達を癒やしてくれます。そして私は今このような素晴らしい環境の中で勉強ができることに日々感謝しています。

こちらの写真は去年、福井県立音楽堂大ホールにて日露交歓コンサート2014に出演した時のものです。日露交歓コンサートとは、毎年ロシア人・日本人アーティスト計6人が、ピアノ、バイオリン、チェロの他にロシア民族楽器など、皆それぞれが一緒となってソロやデュオなどのアンサンブルを披露し、日本全国を廻ります。私も度々参加させていたのですが、チャイコフスキーコンクール等名国際コンクールの受賞歴を持つ方々と日本各地

の名ホールで共演する事ができ、とても光栄です。またこれらのコンサートはすべて入場無料で、出来るだけ多くの方々にクラシックを聞いて欲しいという意味が込められています。私も、今後ますますクラシックが身近に皆さんの元へ届くことを心から願っています。

「ダス・アーベントイヤー」



(14年度助成・声楽)
熊田 彩乃
(留学先・プライナー音楽院)

この言葉を初めて習った時、ドイツ語の響きというのは何と仰々しく野暮ったいのだろう、と感じたのを鮮明に覚えています。Abenteuer、英語にするとAdventure、冒険、という意味です。

ウィーンには世界の国々から音楽家が集まって来ます。私がウィーン国立音楽大学に在籍していた3年間も、食堂でも稽古中でも、いつも様々な言語が当たり前のように飛び交っていました。興味深く聞いていました。馴染みの無い外国語の歌を歌わなければいけない時も、現地の人が必ず周りにいて発音を教えてくれるので、とても助かります。

先日、チェコ人のコレペティートルとチェコ語のアリアを勉強した際、発音が一筋縄ではいかない子音がありました。それはřという字で、上下の歯を閉じながら巻き舌をして発音します。因みにそのコレペティートルの名前にもこの字が入っており、「Překážka」とあなたの名前は日本語で書くこととしても、カタカナに直すことができない。」と言ったら、「ř」にしてパリックって書けば良いじゃないか。」と言われたのですが、実際の発音とはかけ離れたものなので、「パリック」と書く事は気持ちが悪くてどうしてもできないのです。他にも、チェコ語のřと発音で、私が「テイ」と発音すると、それは違うと言

われるのです。そのコレペティートルは、舌先を下の歯の裏に軽く押し付けているのだというので、しばらく真似して発音していると、3度に1度くらい「それだよ！」と言われるのですが、私には違いが今一つよく分かりません。仕方なく他のチェコ人に聞いてみると、tとiの間に一瞬yが入ると言うのです。ますます訳が分からなくなってしまうにまた別のチェコ人歌手に聞いてみたところ、今度のは舌の真ん中あたりを口の中の上の壁に付けるのだと言うのです。そうやって色々な人に聞いているうちに、正しい「テイ」を自分なりに見つけることができました。この「テイ」も到底カタカナで表すことはできません。

できる限りネイティブに近い発音を求めることは、教える側も学ぶ側もとても苦労するところですが、歌手にとっては妥協のできないものです。LとR、BとVなどの典型的な発音の問題を始め、私たち日本人歌手は、カタカナにしてしまおうという障壁をまず乗り越えることが大きな課題だといつも感じます。私が

Abenteuerという言葉を習った時、当時の私がセンチメンタルに無粋だと感じた響きは本当にドイツ語の響きだったのか、今となっては分かりませんが、頭の中で自動的に「アーベントイヤー」というカタカナに変換していたような気がします。今はこの言葉を口にする度、何と刺激に満ちた深淵とした言葉なのだろう、と感じるのです。

奨学生として支援していただいたこの一年間、演奏会やオーディションなどで色々な国や街に行って、沢山の貴重な経験をしました。ほとんど言葉の通じない国で、カタコトで会話をしたホテルのおばあさんの一言に勇気づけられたこともありました。夜に山道で迷った際、きれいな白い狐に遭遇したのはなんとも幻想的な光景でした。移動中にシリア難民の人達と話す機会もありました。日本にいてはできない、Abenteuerをさせていたただいたことを、大変幸せに思っています。心より感謝申し上げます。

「THAS」



(14年度助成・声楽)
宮里 直樹
(留学先・ウィーン国立音楽大学)

人生初の一人暮らしが国外ともあって、非常に緊張していたのだが、ウィーンに来て早くも1年が過ぎてしまった。当時全く分からなかったドイツ語が、少しずつではあるが分かるようになり、先生や友人とコミュニケーションを取れるようになるのは、あの時は思いもしなかった。

当時は、話しかけるのは意外と簡単で、ただ単に質問の文章を頭に浮かべて言うのだが、それに対しての答えをほぼ一つも聞き取れず、友人に翻訳してもらって何とか生活していた。そんなグダグダの状態に僕の留学は始まった。そんな僕のウィーンでの出会いについて書いていきたいと思う。自分で言うの

も何だが、僕は本当に出会いに恵まれている。学校に入らずに始めにやらなければならぬのが先生選びである。僕の場合、オペラのみ科だったので、選ぶのはコレペティツイオンの先生のみで良かった。ただ、プライベートで習っていた声楽の先生に紹介されたコレペティの先生が、すごく人気のある先生で、すでに生徒が沢山いて取ってもらえなかった。唯一残っていた先生にお願いしたが、その先生が僕にとっても合っていたのだ。先生も僕の声を気に入ってくれ、良く演奏会や講習会に誘ってくれた。

そのお陰でKonzerthausで歌わせてもらう事も出来た。自信を無くして情けない事を言う度に「あなたはとても上手よ！大丈夫！」と事あるごとに元氣付けてくれたりもした。実際どうだったかは分からないが、僕はその言葉に何度も救われた。今でもとても信頼している。

他にも演奏会に出た時に話しかけて下さったヴァイオリンの先生にお仕事を頂いたり、コレペティ科のオーディションがあるから練習歌手としてボエームを歌って欲しい、と行った先

で知り合った指揮者の方に勧められたオーディションでイタリアに行き、無事に合格してボエームを歌える事になったりと、挙げだしたらキリがない。

僕の人生は本当に沢山の人の手助けによって成り立っていると、言っても過言ではない。どんな小さな事でも手を抜かずに、そして全ての出会いと僕に関わって下さった全ての方に感謝を忘れず、誠心誠意取り組む事が大事だと感じた1年だった。これからも貪欲にいろいろな事に取組んで行きたいと思う。

「異文化の中で音楽の本質を見つめる」



(14年度助成・ピアノ)

浦山 瑠衣

(留学先・ボストン音楽院) アメリカと言えば、人種のサラダボール」と言われ

るほど様々な文化が共存する国である。自己アピール能力やキャリアメイキング、室内楽の醍醐味等この国で学んだことは数えきれないが、異文化を知り様々な角度から物事を見ることを学ぶことで固定概念が消え、音楽の表現力も広がった。私の異文化体験と音楽との繋がりを少し話したいと思う。

アメリカで最も歴史の古い街、ボストン。この街は芸術と様々な文化に溢れている。煉瓦造りの建物、ギターを背負って石畳の通りを歩く学生、ボストン交響楽団や美術館、ボストンバレエが身近にあり、ストリートミュージシャン、外のカフェに座ればいくつもの国の会話が聞こえてくるとても面白い街である。アメリカで出会ったピアノトリオのメンバーと、2年前の夏にイタリア、リトアニア、そしてアルバニアへ演奏旅行に出掛けた。自主企画だったので主に国の横断はコスト削減のためにバスで。クロアチア、マケドニア、セルビア、ラトビア等の国境をまたいだ際にはチェロケースに目をつけられ、銃を持った警官の前で持ち物検査を受けるなどという冷や

汗握る瞬間も多々あった。演奏場所は、教会や音楽大学、ワイン工場などもあったし、コンサートホールもあった。アイスクリームを食べ歩きしていると、小さな子供が「それ頂戴」とずっとついてきて、首都にも関わらず野良犬が歩き回る整備されていない道を歩くとじろじろ見られた。舞台上に出るとアジア人というだけで非難されることもあったが、演奏し終わると涙を流して手を握ってくれる老人もいた。明日という日常が待っているのかわからない時勢の中でコンサートに現れてくれて、一瞬でも音楽を通じて感情を共有し合い、観客も演奏者も息を共にできた経験は貴重であった。コンサートが大盛況で急遽次の日に同じプログラムを繰り返すということもあった。

アメリカに帰ってから、もっと色々な国の人々に目を向けるようになった。豊かな日本で育つ中で、何年前の私は音楽の本質を忘れてしまっていた。日々の生活の中で異文化を身近に感じることで、音楽は全世界共通の言葉なのだということを改めて実感している。

日本音楽コンクール

明治安田賞受賞者(作曲部門)

日本音楽コンクールの作曲部門は、現在活躍中の作曲家の方々がデビューの足掛かりとしてきた重要な部門ですが、当財団は若手作曲家の励みとなるよう財団発足の91年度から同部門の最優秀者に対し「明治安田賞(賞金50万円)」を寄託し、これまでに次の方々を受賞されています。

91年度 (第60回)	山岡 智 (敬称略)
92年度 (第61回)	伊左治 直
93年度 (第62回)	藤満 健
94年度 (第63回)	原田 敬子
95年度 (第64回)	望月 直
96年度 (第65回)	若林 千春
97年度 (第66回)	なかにし あかね
98年度 (第67回)	大場 陽子
99年度 (第68回)	三浦 則子
00年度 (第69回)	小野 貴史
01年度 (第70回)	名倉 明子
02年度 (第71回)	朴 銀荷
03年度 (第72回)	中村 寛
04年度 (第73回)	宮澤 一人
05年度 (第74回)	横島 浩
06年度 (第75回)	篠田 昌伸
07年度 (第76回)	山根明季子
08年度 (第77回)	稲森安太己
09年度 (第78回)	江原 修
10年度 (第79回)	中辻小百合
11年度 (第80回)	三宅 悠太
12年度 (第81回)	魚路 恭子
13年度 (第82回)	網守 将平
14年度 (第83回)	杉本 友樹
15年度 (第84回)	東 俊介



助成対象者の皆さんから寄せられたお便りを助成年度、専攻部門の順に掲載しました。

1991年度助成

江澤 聖子 (ピアノ)

第一回目の助成をいただき、ベルリン留学を経て、現在桐朋学園大学と国立音楽大学にて多くの学生を育てています。その合間を縫って、自分にとって意義深い研究テーマに基づいたりサイトを毎年続けています。

今は、今年1月にリニエールされる国立音楽大学附属図書館に眠る多くの歴史的貴重楽譜の演奏への活用について、色々な考えを巡らせているところです。

鈴木 優子 (打楽器・デュッセルドルフ在)

ハンブルクのドイツ劇場の演劇作品に、演奏家として出演します。フェリーニ作「そして船は行く」(ドイツ語名 Schiff der Traume)を舞台化した作品で、オーケストラ団員が船旅をする間の人間模様を描いています。2015年12月から定期的に上演します。(劇場のウェブサイトを http://www.schauspielhaus.de/de_DE/repertoire/schiff_

der_traume:1052784

1992年度助成

田中 晶子 (ヴァイオリン在)

2015年は前年に続いてマキシム ヴェニンゲローフとの共演、サントリールホール、王子ホールがありました。アメリカでも、ニューヨークデビュー(カーネギー)とアイシンシュタインのゆかりの街、プリンストンでもリサイトをし、年末は上海フィルとの共演や、イリアーティン氏と王子ホールでのリサイトなどがありました。2016年は東京文化会館でのリサイトなどに加え、ドイツでマスタークラスもします。

日本学生音楽コンクールに於いて審査委員を努めさせていただきました。たくさんの素晴らしい才能と、若い学生さんたちにひとこと。コンクールは絶対に結果に一喜一憂することなく、音楽と自己の真の探求を課題に、一生の長い道のりを前に進んで欲しいと思います。

梅津 千恵子 (打楽器)

生きていく者の力となり続ける音楽。想いや願いを音に託した打楽器コンサートを企画し続けていこうと思っております。

大地の饗宴(パーカッション) メッセージ vol.1 (梅津千恵子プロデュース) 出演:梅津千恵子、古徳景子、林瑞穂、小室昌

広 [Cb] 日時:2016年2月24日 (水) 19時開演

会場:すみだトリフォニー小ホール

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。 http://umezu.chieko.jindo.com

1993年度助成

九頭見 香里奈 (ヴァイオリン・アウグスブルク在)

近況としましては、特に変わりなく、Stuttgartフィルの第2コンサートマスターの仕事以外に、時々室内楽のコンサートやリサイトを行っています。

昨年9月に新しい常任指揮者が就任し、同僚達のモチベーションが一気に上がり、病欠をする日本が全くなりません。普段は、日本人の私から見ると驚かされるくらい、簡単に病欠をする同僚が多いのですが、このままいい雰囲気が続いてくれたらと願っています。

ドイツは、病気や障害のある人を特別に保護してくれる素晴らしい国ですが、残念ながらそれを悪用する人が増えているのが事実です。お年寄りや障害者、失業者を保護するドイツを夢の国と思う難民達がこの国に住みたがるのも当然なのですが、この先どうなっていくのでしょうか。外国人としてドイツに住みながら、息子をドイツ人として育てつつ、色々と考える事が多い日々です。

山本 はづき (ヴァイオリン)

留学後いろいろな経験を積み、現在は9年目となる群馬交響楽団の第2ヴァイオリン首席奏者として、またソロや室内楽活動等を行っております。

優秀で勢いのある若手の演奏、さすがと思わせるベテランの人生観も垣間見えるような演奏に触れ、音楽に携わった仕事を続けていられる幸せと思えるこの頃です。

齋藤 千尋 (チェロ)

小林 幸子 (ヴァイオリン)

(注)両氏はロータス・カルテットとして演奏活動中・シユットガルト在)

2015年秋冬のロータス・カルテットは、初めて弾くメンデルスゾーン作品13、18歳の時の手による素晴らしいカルテットに着手し、今まであまり弾いたことのなかった彼の才能に感嘆しつつ、ハイドンの作品20、ベートーベンの中期作品、シューベルトの後期作品などを組み合わせた演奏会を続けています。

2016年には、春と秋に日本へツアーを予定しております。23年間で培った広いレパートリーの中より得意分野と自認しているドイツクラシックの特に重鎮とされる曲(シューベルト最後の作品や師ペーターブツクとの共演で5重奏、ベートーヴェン後期(シユールベルト)を中心としたプログラム)を持参し、私たちが長年愛してやまない素晴らしい

音楽のエッセンスで成る弦楽四重奏というジャンルを是非日本の皆様とも一緒に楽しみます。日を心待ちにしております。

1994年度助成

樋口 あゆ子 (ピアノ)

私の2016年シーズンの子定は、上半期2月末迄は、樋口あゆ子日本楽壇デビュー20周年記念ピアノリサイトを全国リサイトツアーを東京、大阪、名古屋で開催致します。

3月からは、私が総音楽監督・実行委員長を務めます「第2回日本ベトナムピアノフェスティバル・ベトナム公演4カ所」をハノイにて行います。

その後、東京に3月末に帰国し、通常の年間50回音楽活動と、FM横浜・毎週土曜日18時45分ピアノワイナリー響きのクラシックの司会を努めます。本番組もお陰様で、2016年6月末で満5年を迎えます。これまでお世話にあずかりました皆様に心より御礼を申し上げます。

クラシックの音楽家の活動は、日々の地道な活動の賜物で、特別な事が無い限り、一般の方々にその存在と音楽活動の内容を知って頂く、という事はなかなか難しい事だと思います。財団の御関係者の皆様、関東圏でコンサートをされる機会が、より多く、もしましそれを、より多くの方々に告知をご希望される場合は、是非、私のFMの番組

にゲストにお越し下さいませ。それでは、本年も何卒宜しくお願い致します。

マリア・アヤ・アシユリー

(ヴァイオリン・ボン在) ケルン放送交響楽団に入団してもう十五年が過ぎようとしています。最近印象に残ったのは、オーケストラのスペインツアーの時、バルセロナのホールで演奏中、リストラの波に抗議するホール職員たちが、何十枚ものパンフレットを三階席から舞台と客席に向かつて無言でばらまいたことです。私達はシヨックを受けましたが、そのまま演奏を続けました。昨今、難民問題や経済危機などで暗くなりがちの人々の心に少しでも響く音楽ができたらと思っています。

神田 寛明 (フルート)

30年の歴史を刻み内外より高い評価を得ている神戸国際フルートコンクールが、神戸市の予算計上見送りにより、次回の開催が危ぶまれています。

なぜ音楽が必要なのか、音楽は社会に何をもちたらずのか。音楽の高みを仰ぎ見、その素晴らしさを人々と共有することを使命とするのが音楽家ですが、演奏や教育活動に留まらず、社会からのさまざまな投資に対する、音楽という「無形の見返り」を各界に広く理解していただけるよう説明する責任をも有することを、あらためて感じました。私が貴財団より奨学金をい

ただいてウイーンのヴォルフガング・シユルツ先生の元へ留学できたのも、1993年の同コンクールに出場した私の演奏を、審査員だったシユルツ先生が覚えていて下さったからです。その後運営のお手伝いを10年ほどさせて頂いた頂きました。この素晴らしいコンクールの存続を願ってやみません。(NHK交響楽団首席フルート奏者 アジア・フルート連盟常任理事)

松岡 みやび (ハープ)

新しいハープ奏法「ミヤビ・メソッド」(指にマメをつくらず呼吸法と重心移動により、美しく豊かな音色を生み出す私のオリジナル技術)を創設してから、おかげ様で全国20県より飛行機や新幹線で生徒さんたちにお越しいただくようになりました。

東京・目白で主宰しておりますハープ教室には、フランス・アメリカ・シンガポール・香港など海外からレッスンを受けに来てくれる生徒さんも多く、音楽之友社より発売中の「はじめてのハープ教本」(松岡みやび著)は完売し重版となりました。株式会社ミヤビ・メソッドのスタッフも5名に増え、昨年入社した東京芸大ハープ科の後輩とともに、マッコ・デラックスさんのバラエティ番組にも出演。トヨタ自動車・三井住友三越伊勢丹ホールディングスなど我が国を代表する企業の社長100名が集う会でもコンサートをさせていただき、

幅広くハープの普及活動に努めております。

1995年度助成

大森 潤子 (ヴァイオリン)

札幌交響楽団での活動も10年目に入りました。2015年は、東京でデビューリサイタルを行ってから15年の節目で、初めてのCDをリリースさせて頂きました。その記念リサイタルを札幌と東京で開催したのですが、幼少時にお世話になった方、学生時代からの友人や先生方、パリ留学時の友人など、懐かしい方々も大勢かけつけて下さり、音楽を続けていれば再会できることを実感しました。

アウトリーチ活動も相変わらず行っています。毎秋冬の北星学園大学チャペルでのパツハ演奏は、8回目を数えました。

つい先日、新聞社で生涯学習の講演の機会を頂き、留学のエピソードにも触れたのですが、あの4年間あつての現在であることを再認識し、助成して頂いたことへの感謝の念を新たにしました。

志茂 美都世 (ヴァイオリン・イギリス在)

元気に過ごしています。今年11月13日(日)に、JTAアートホール アフィニスでヴァイオリンリサイタルを開催予定です。

大井 浩明 (ピアノ)

昨年は生まれて初めて「劇伴」録音というものを経験しました。一つ目はWOWOWドラマ「夢を与える」(音楽/上野耕路)で、5月にサントラ盤CDが出ました。もう一つは今年1月9日から放映開始のNHK土曜ドラマ「逃げた女」(水野美紀主演/全6回)で、私はピアノのほかにチェリスト、フェンダーローイズ、オンドマルトノ他を担当しております。

石橋 幸子 (ヴァイオリン・スイス在)

2015年も弦楽三重奏「トリオ・オレアーテ」の活動を中心に、充実した一年となりました。そして、4月に行われたバーゼルでのコンサートのライブ録音CDも発売されました。

2016年はスイス国内ツアー及びドイツツアー、またメニューイン音楽祭への出演も決まっています(2017年にはアメリカツアーを予定)。今後もレパートリーを増やし、積極的に活動して行きたいと思えます。(チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団所属)。「トリオ・オレアーテ」公式ホームページ www.trio-oreade.ch

1996年度助成

磯 絵里子 (ヴァイオリン)

昨年は7作目となる新譜CD「ロンド」がリリースされ、

コンサートが全国20か所で開催されました。また毎年お声掛け頂いております「明治安田生命愛と平和のチャリティコンサート」でも楽しく演奏させて頂きました。

今年もソリストとして、また鎌倉芸術館ゾリステンのメンバーとして、アンサンブルΦ(ファイ)や従妹神谷未穂とのヴァイオリンデュオデュオ・プリマなど、室内楽分野でも活動予定です。未就学児からの子供のためのコンサートや、(一財)地域創造支援アーティストとしてのアウトリーチ活動では子供たちの感性に刺激されることも多く、私の活動の大事な部分の一つです。FMヨコハマのクラシック番組「磯 絵里子のSEASIDE CLASSIC」のパーソナリティを務めて6年目、これからもクラシック音楽のあれこれを発信していく場として、多くの皆様にお聴き頂きたいと思えます。

私の演奏会や活動は下記HPまたはブログで新着スケジュールを公開しております!
<http://www.34net.com/eriko>
<http://yaplog.jp/iso-diary/>

上里 英子 (ヴァイオリン)

2013年にはデュオとピアノ三重奏のCDをリリースしました。演奏活動としては、昨年は2本のコンチェルトを始めリサイタルや室内楽などたくさんのお機会をいただきました。また後進の育成のため、演奏家仲間と室内楽専門のマス

タークラス「カンマームジークアカデミーin県」を立ち上げ、次回で第4回目になります。今後もいろいろな活動を広げていきたいと思っています。

1997年度助成

泉 良平 (声楽)

昨年は舞台活動に忙しい年でした。東京二期会リゴレットのモンテローネ役、日本オペラ協会の袈裟と盛遠の盛遠役、ミュージカルおにころのタイトルロール、オペラみづちのタイトルロールなど、全く違った役柄を演じることができました。

また洗足学園音楽大学の客員教授として未来の音楽家たちを指導しています。1人でも多くの舞台人が排出できると奮闘の日々です。洗足学園は素晴らしい学びの環境を持っており、是非一度お立ち寄り下さればと思います。

本年は春に日本オペラ協会天守物語の朱の盤坊役出演の予定です。

山崎 貴子 (ヴァイオリン)

昨年はバルトークの弦楽四重奏曲全曲に挑戦し、どっぶり浸かって幸せな年でした。相変わらず子育てと仕事でどたばた生活ですが、芸高・芸大での若い才能と、カルテットや紀尾井シンフォニーエッタ東京、その他演奏からの充実した刺激を受けて幸せな日々を過ごさせて頂いています。2016年はメンデルスゾー

ンSQ全曲+Fanny Mendelssohn, Ferdinand Davidの弦楽四重奏曲に、3回シリーズで取り組む予定です。

1998年度助成

黒木 香保里 (声楽)

私が、初めて、第九を歌ったのは、故郷、宮古の中学2年生の時でした。ドイツ語など全くわからず、たまたまテレビで井上道義さんがやらせていた「みんな第九を歌おう」という番組を父と共に見ながら、一生懸命、合唱練習したことを懐かしく思い出します。その故郷宮古で、「第九」の演奏会が開かれ、ソリストとして、歌うことになりました。この4年間、被災地の支援コンサート活動を行っていた私にとりまして、非常に感慨深いおもいでいっぱいです。故郷の空に歓喜のFreudeが響きわたることが、夢のようです。

被災地支援を通して、人間として、音楽家としてたくさんのお話を、学びました。これからの、ずっと、被災地に、そして、子供たちに寄り添う演奏を、していきたいと思っています。

島田 真千子 (ヴァイオリン)

6年間のドイツ留学生活を終えて2005年に帰国してから、10年という月日が経ちました。ようやく音楽家として様々な場所を見つかる事が出来つつあり、これまでお世話になりましただくさんの

方々に、感謝の気持ちでいっぱいです。

今年1月の愛知・碧南エメラルドホールで、ソロコンサートマスターを務めて3年目となるセントラル愛知響と、ヴィヴァルディの四季&名曲を共演するリサイタルを始め、3月の東京春祭の室内管弦楽団の公演や各地での室内楽の公演があり、また今年からはマスタークラス等で教える事も始まります。

助成やご支援を頂いてここまで来られた事への感謝を、音楽家として社会に還元して行ければ、と願いつつ、全ての音楽や人との出会いを大切にして行きたいと思っております。

1999年度助成

田邊 織恵 (声楽)

昨年4月には、大阪フェスティバルホールで、ロッシニ二作曲「ランスへの旅」に、マエストロゼツダ氏指揮のもと出演させていただけた事は、私の人生の中でも最大の喜びでした。87歳とは思えないゼツダ氏のエネルギー、音楽人としての素晴らしさに触れる事が出来、本当に多くの財産をいただきました。11月には河原忠之氏プロデュースの「魔笛」にパバゲーナ役で出演。こうして素晴らしい方々と音楽が出来る事に日々感謝しながら、これからも一つ一つ丁寧に取り組んでいきたいと思っています。

大谷 玲子 (ヴァイオリン)

演奏活動と京芸、相愛、県西での後進の指導に追われる毎日です。

2016年は、ヴィエニャフスキ国際コンクールに最高位入賞してからちょうど20年になります。この記念の年に、パツハの無伴奏ヴァイオリンソナタ&パルティータ全曲演奏会を大阪と東京で行う予定です。これまでの音楽活動の成果を多くの方々にお聴き頂ければ幸いです。

2000年度助成

諸田 広美 (声楽)

一昨年の結婚に続き、昨年大きな転換期となり、地元・前橋に住居兼スタジオの新拠点を構えました。主人がピアノリストで、ピアノ販売にも携わっていることから、国内に1、2台と推定される、ガヴオーのフルコン、ボールドウインのフルコン、メイソン&ハムリンのグラランド、100年前のクナーベという名器が揃いました。

また、昨年のメイン・イベントは、オペラ「かぐや姫」の役でロサンゼルス・アラタニ劇場にデビューしたことから、群馬交響楽団創立70周年記念オペラ「蝶々夫人」スズキ役で出演したことでした。後者は、イタリヤ・ルツカで毎年開催されるプッチーニ・フェスティヴァルと提携していたこともあり、今夏同フェスティヴァルに招かれ、同役で出演する予定です。今年は夢

の一つであった、新国立劇場で歌うことも叶うことになり、3月16日夜ガラ・コンサートに出演予定です。今年も体調に気をつけつつ、歌の道を邁進したいと思っています。

上野 真理 (ヴァイオリン)

昨年は、リサイタルのほか、美術館や図書館開館記念コンサート、戦後70年のコンサートに出演させて頂きました。行動に移すことの大切さを思い出し、コンサート企画のために立ち上がってくださった皆さまの力に感銘を受けました。

また、オペラやバレエのオーケストラのお仕事を通して、舞台芸術の奥深さに、すっかり魅了されました。

神谷 未穂 (ヴァイオリン)

仙台フィルフィルコンマスに就任してから5年経ちました。4月15、16日には仙台フィル定期演奏会300回を迎えます。曲目は「ベルリオーズの幻想×レリオ」。17日にはサントリーホールにて同プロを演奏します。仙台フィルを東京で、また珍しいレリオを聴く機会、是非いらして下さい！

1月は横浜をスタートに、飛騨古川でピアノトリオ、三鷹ニューイヤーフアミリーコンサート、名護で従姉の磯絵里子とのデュオプリマ×新垣隆、相馬で仙台フィルの仲間とのコンサート等があります。今年もあちらこちらで演奏させて頂ける事、明治安田

文化財団はじめ、ご支援下さる皆様に感謝の気持ちで一杯です。どこかでお会い出来ません様に。

藤井 香織
(フルート・アウグスブルク在)

このお便りを書いている11月現在は、前年に立ち上げたNPO、Music Beyondのベネフィットコンサート準備真つ最中。このNPOは、現在コンゴ民主共和国で、アマチュア音楽家を音楽の先生にするための教育をしています。これまでにコンゴへ4回出向きお教えする中で、どんな環境でも情熱さえあれば、いい音楽作りはできるものなんだ！と、毎回身をもって教えられていきます。
今回は12月、その次は3月と予定は盛り沢山。正直苦労も多いNPO活動ですが、私自身が受けてきたこの上なく幸運な音楽教育を、一生の糧として真剣に音楽と向き合っている人々に受け渡し、彼らと、彼らが教える次世代の子供たちにポジティブな発展をもたらすことは、将来的に、多くの問題を抱える最貧国の中にも良いコミュニティを生み出すことに繋がる、と強く信じて日々頑張っています！
www.musicbeyond.org

シュレイファー 三子
(ハープ・ダラス在)

昨年もお新しいシーズンが始まったと思ったらあっという間に年末が差し迫り、今年もシーズンオフまでの道のりを考え目眩を覚える今日この頃です。皆様におかれましては

ご健勝の事と存じます。昨年引き続きまだまだ手のかかる二歳の息子に振り回され試行錯誤しております。

ここダラスでのオーケストラのコンサートは木曜日から日曜日まで、週4回同じコンサートが続くので、オケの仕事の折は毎晩帰宅が遅くなり、息子の成長を見逃してしまっているのではないかと不安を覚えます。でも先輩演奏家の方々の姿に励まされ、どうか日々過ごしております。

今年もソロや室内楽、オーケストラそして教える事と、ダラスを中心に活動して参ります。また新しいCDの録音予定があり、こちらは作曲家の方とのコラボレーションとなり、今まででないジャンルのものでないで、楽しんでしています。

2001年度助成

日下 紗矢子
(ヴァイオリン・ベルリン在)

2008年からベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団の第一コンサートマスターを務めています。2013年から読売日本交響楽団のコンサートマスターも兼任させて頂いています。

昨年の夏には2009年からリーダーを務めているベルリン・コンツェルトハウス室内オーケストラの2回目の日本ツアーも無事終えました。ドイツと日本を行き来しながら充実した日々を送っています。

三上 亮
(ヴァイオリン)
昨年は、様々な室内楽の演奏会を全国各地で行いました。特にチェロとのデュオは好評で、九州から北海道まで数十回にもなりました。

2016年は、1月にウィーンフィルコンサートマスターのライナー・ホーネット氏を招いてのゼクス・テット、4月にはフランスからパーカッションニストを招いて福岡、広島、東京などで演奏会を控えています。

大石 将紀
(サクソフォン)

昨年は夏にサントリー・サマーフェスティバルでB、A、ツイン・マーマンの「ある若き詩人のためのレクイエム」をオーケストラの中で演奏したことが大変印象深く残っています。作品中に溢れる、音、言葉、言葉、言葉。20世紀の歴史を凝縮させた、歴史的超大作の持つ圧倒的な力を奏者として感じる事が出来、震えるような経験でした。聴衆の一員としても体験してみたい作品です。

2002年度助成

大崎 結真
(ピアノ)

2015年は、国内での演奏会その他、「ジュネーブ国際音楽コンクール」入賞者コンサートやドイツでの演奏会に恵まれ、そして英国でのコンサートツアーで2016年が始まります。国際コンクールへの挑戦と

この第一歩が海外での演奏会に繋がりました。その環境を与えて下さったことに心から御礼申し上げます。

2003年度助成

市原 愛
(声楽)

昨年10月にオクタヴィア・レコードよりファーストアルバム「歌の翼に」をリリースさせて頂きました。ドイツ留学中に学んだ曲を、この様な形で残せる喜びを噛み締めると同時に、これまでご支援下さった多くの方々に改めて心より感謝する日々です。

2004年度助成

脇岡 洋平
(ヴァイオリン)

昨年の6月に東京文化会館小ホールでのリサイタルを終え、息をつく間もなく室内楽をたくさんやらせていただきました。12月にはヴァイオリニストの朝枝信彦さん、歌手のアンナマリア・パマーさんと共演しました。今年には室内楽の演奏会をしつつ、次のリサイタルを見据えているりと準備、挑戦をしていけたらと思っております。

2005年度助成

佐野 隆哉
(ピアノ)

昨年11月半ばから一週間ほど、レオニード・クロイツァーゆかりのピアノによるCD録音事業に携わり、岡山県真庭市のエスパスホールにてレコーディングをして参りました。国産フルコンサートピアノの初期の、現存する最後の一台での録音でしたが、実際にブリリアントで響きが美しく、出来上がりが今から楽しみです。今年春には、発売予定です。

遠藤 真理
(チェロ)

ラジオ番組「きらクラ！」のMCは三年目を迎えました。収録では毎週素晴らしいスピーカーで聴く音楽が日々の疲れの癒しになっています。

2006年度助成

佐藤 卓史
(ピアノ)

昨年はNHK交響楽団・広島交響楽団との初共演をはじめ、ヨーロッパでも久々に演奏活動を行い、充実した1年となりました。CDの録音セッションも多数生まれ、

続々リリースが予定されています。

ライフワークの「シューベルトツイクルス」では、昨年春の公演では即興曲全8曲を、秋には未完作の補筆や、佐藤彦大君との共演で初期の連弾曲などを披露しました。次回公演「舞曲I」は4月7日、これまでと同じく東京文化会館小ホールで開催します。私事ですが、昨年4月に結婚いたしました。今後ともよろしくご支援・ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。(http://www.takashi-sato.jp)

鈴村 真貴子 (ピアノ)

様々に移り変わる世界情勢の中、音楽を享受できる環境にあることがとても幸せな事だと強く感じております。

昨年は、私のライフワークとしてF プーランクに關して、東京藝術大学附属高校の紀要に論文を掲載させていただいたり、リサイタルをはじめとする演奏活動や音楽高校や大学での後進の指導など、とても充実した一年を過ごす事ができました。今年も真摯に音楽と向き合い、音楽の持つ豊かな可能性を信じて、日々を過ごしたいと思っております。

2007年度助成

中村 恵里 (声楽・ミュンヘン在)

ドイツへ拠点を移してから早5年が過ぎました。最近はお州のみならず、北・南米、中

東、日本を含むアジア各国で歌わせて頂いており、非常に忙しく活動させて頂いており、非常にくれぐれと努力はどの国へ行っても同じことで、めまぐるしく活動していても、その核の部分にはいつも大切に今後も直向きに努めたいと思っております。今後はテアトロ・レアルやチェコフィルハーモニーとの共演、日本でのリサイタルに加え、引き続きバイエル国立歌劇場にも出演します。

2008年度助成

クリスティン・木実・ウィットマー (声楽・オランダ在)

昨年は、3月にデン・ハーグ国立音楽院の修士課程を修了し、5月には第一子出産と、新しい節目を迎えました。心身共に様々な変化を体験し、それら一つ一つが声だけでなく、曲の解釈や音楽家としての内面にも大きな変化をもたらしていると感じます。子供と音楽という二つの情熱と向き合いながら、生(なま)物としての音楽の新たな深みと愉しみを見いだす日々です。

塚越 慎子 (マリンバ)

数々のメディアに出演して以降、多くの方々にマリンバに興味を持っていただくことができ、これまでのソロ演奏やアンサンブル活動に加え、さまざまな楽器とのコラボレーションに恵まれました。そしてそれらは、新たなマリンバの可能性を感じることの

できる素晴らしい機会でした。

今年度は、広島交響楽団定期演奏会への出演や、平成28、29年度公共ホール音楽活性化事業の登録アーティストとして、日本各地でのコンサートのほか、地域交流として、学校や福祉施設などでのワークショップ活動を行う予定でおります。また、3枚目となるソロCDもリリース予定です。今後は、マリンバを通じてたくさんの方々と出会い、交流し、心豊かな音楽を奏で続けられるよう、挑戦し続けたいと思っております。

2009年度助成

盛田 麻央 (声楽)

今、専門的な分野を追求することがとても重要な時代になっていると感じます。留学期間で学んだ音楽表現、語感、性格環境の違いなど、帰国から時間が経つほどに活用の機会が増えています。留学時代に「あり、もっとあれやっておけばな」とか「あの時、どうしてたっけ？」などと思うことも。これから留学に向かう人も、そしてこれからの私も、悔いの残らない行動をとり、しっかりと記録にのこして生活して欲しい、していきたいと思っております！

重島 清香 (声楽・ワイマール在)

所属のワイマール劇場で昨年10月、リヒャルト・シュトラウス「ばらの騎士」に主役オクタヴィアンとして出演し

ました。通常は数週間におたつて行われる演技稽古ですが、再演ということでも今回はわずか4日間の稽古でした。この大作を短期間で仕上げることに大変苦労し、公演では緊張もしましたが、聴衆の皆様から拍手を頂いた瞬間には安堵を覚えました。

金子 平 (クラリネット)

昨年の五月には、私が所属している読響とニールセンのクラリネットコンチェルトを演奏する機会をいただき、またウエルズ弦楽四重奏団とのCDデビュー、東京六人組という木管五重奏とピアノの編成のグループで活動を始めて、CDの作成やコンサートをしました。これからはレッスンにも力を入れていきたいと思っております。

2010年度助成

高橋 さやか (声楽・フランス在)

この9月でフランスの音楽事務所所に所属してから一年が経ちましたが、この一年は日本に度々帰国していたこともあり、思うようにたくさんのおいでしヨウを受けられてはいない状態でした。しかし、この秋に一つの劇場のオーディションを受けることができました。このような貴重な機会を与えてくれた音楽事務所に感謝をしつつ、何か現実的な話に繋がることを期待しています。

2011年度助成

坂本 彩 (ピアノ・ベルリン在)

留学生生活5年目、ベルリン芸大に学びつつこの1年はコンクールや講習会でイタリア・フランス・スペインを訪れました。その為各地のオーディエンスの前での演奏機会を持つことができ、様々な国籍のピアニストと肩を並べて演奏したことは貴重な経験でした。そのなかでよく耳にした言葉は「パーソナリティの重要性」です。文化交流の盛んなヨーロッパで刺激を受けながら自身の音楽のアプローチ法をしっかりと確立し、今年には更に挑戦の一年にしていきたいです。

永井 基慎 (ピアノ・フランス在)

この1年はリサイタル等での伴奏のお仕事をいただく機会が多く、アンサンブル好きの私にとっては有意義で楽しい年となりました。また、今年度よりパリ音楽院伴奏科に在籍し、一般的な伴奏からスコアリーダーや通奏低音まで、音楽を様々な視点からより多角的に学んでおり、以前より忙しくも充実した生活を送っております。

黒金 寛行 (バス・トロンボーン)

普段のオーケストラでの仕事に加え、室内楽活動においても充実した活動に携わらせて頂いています。昨年は9月に、「ブラスアンサンブル・ゼロ」において、カールスルー

エ音大教授のラインホルト・フリードリヒ氏(トランペット)をゲストに迎えた演奏会を全国3ヶ所で行い、素晴らしい経験をさせて頂きました。

2012年度助成

竹下 裕美 (声楽・ウイーン在)

昨年秋、ミラノの国際コンクールを受けに行った際、開催直前に追加申し込みをしたため、行き当たりばったりで、怖い思いをしたりの弾丸の旅となりました。しかし、思いがけずファイナルまで進むことが出来、特別賞を頂いて、新年はエストニアに招待され、劇場でのニューイヤークンサートに出演致しました。また、マネージメント会社と契約を結び、少しずつですが自分の夢に向かって歩み始めています。

3月までの演奏会を終えた後にウイーンへ再び戻り、5月はMozart作曲「皇帝ティートの慈悲」よりヴィットリア役を歌わせて頂きます。

昨年のオペラ公演では、金髪のカツラを被らされ、マリリンモンロー風の美女になる予定が、新宿二丁目のチーママにしか見えなかったため、今回金髪だけは阻止したいです。

貴財団の奨学生としてヨーロッパで学ばせて頂いた経験を基に、これからの感謝の気持ちと謙虚さを忘れずに精進致します。

松本 紘佳 (ヴァイオリン・ウイーン在) ウイーンでの留学生活は4年目を迎え、大学3年生になりました。

昨年春はポーランド・ダンツィヒでポーランド・ダンスティック交響楽団とワタクスマン演奏のカルメンファックスロだけを演奏しました。またソロだけでなく、室内楽では大学主催の演奏会でウイーンの作曲家、シエーンベルク作曲の話し手付きピアノカラルトへの頌歌」を演奏する機会をいただいたり、武満徹作曲の「妖精の距離」やオリヴィエ・メシアン作曲の「主題と変奏」など、これまで演奏して来なかった作曲家の曲を勉強できてとても興味深いです。

「今出来ることに最大限の努力をする」ことを念頭に今年も、より良い成果を出せるよう自分を磨いていきます。

2013年度助成

加藤 のぞみ (声楽・パルマ在)

2年間のイタリア留学を経て、2015年9月からスペイン・バレンシアの劇場Palau de les arts Reina Sofiaの専属研修所に所属しています。執筆時は12月公演ヘンデル「シツラ」の稽古を中心に、偉大な歌手とのマスタークラス、ヴォーカルレッスン、コンサートの毎日です。家族や先生をはじめ多くの方の支え、音楽を通じた様々な出会いが私を導いてくれていると強く感じております。

2016年4月にはイタリア・ピアチェンツァ、モデナ歌劇場シーズン公演ブッチーニ「蝶々夫人」suzuki役で出演予定です。

新村 理々愛 (フルート・ロサンゼルス在)

渡米時18才だった私は今や21才になりました。公約通りフルートを通して表現したかったHollywood映画の世界で今や活躍しています。どのオーディションでもフルートは私にとって最大の武器です。留学で大切だと痛感した事ベスト3を掲げます。

第1位は現地の言語を完璧?に学んでから行く事。語学が完璧じゃないと相手にされません。第2位は現地在住の友人を沢山作ってネットワークを作る事。情報収集は自分を高める重要な源です。第3位は常に謙虚に!「先生&スタッフから教えていただく」と言う姿勢で臨む事。成功の秘訣は『謙虚で感謝を忘れない』正にこれに尽きます。

2014年度助成

中川 日出鷹 (ファゴット・フランクフルト在)

日本でのリサイタルを終わって約一ヶ月アンサンブルモデルンアカデミーでの初めてのオペラのコンサートがありました。朝から晩まで現代音楽尽くし、毎日、自分に足りないことを発見出来て充実した時間を過ごしております。今は出来るだけたくさん作品に触れられるように努力しています。

2015年度助成

中島 桃子 (声楽・ウイーン在)

少しでも早く舞台に立ち、歌い手として自立したい、という思いから、私は現在、大学のオペラ科と独唱科両方の修士課程に在籍し、忙しくも充実した日々を送っています。

6月には大学のオペラ公演でファルスタッフに出演する他、国内外のコンクールやオペラ研修所にも積極的に申し込んでおり、今は結果を待っている段階です。貴財団のご支援の下、夢に向かって引き続き邁進致します。

篠原 悠那 (ヴァイオリン)

小3より7年間福井県から東京へレッスンに通い、音楽高校進学時に東京に出てきたことで、経済的な面で海外留学は遠い夢と諦めていた私ですが、音楽研修生に選んでいただき夢が現実となることに心より感謝申し上げます。

今春はCDデビュー、トツパンホールでのデビューリサイタル、英国王立音楽院交換留学と新しい経験が続きます。留学に向けて語学の習得をし、日々ステップアップを目指し研鑽を積んでいきたいと思っております。

時間を過ごしております。今は出来るだけたくさん作品に触れられるように努力しています。

長尾 春花 (ヴァイオリン・ハンガリー在) ブダペストでの生活が始まり、2ヶ月が経ちました。留学早々アメリカで演奏会がありませんでしたが、徐々に慣れてきています。エステル先生のリッスンを週4回ペースであり、バルトック周辺のハンガリー音楽習得と同時に、長年こびり付いた癖を根気強く直してくださり、今ついでにこうと必死です。

麻生 雄基 (テューバ・ワイマール在)

2015年10月より、ワイマール音楽大学において国家演奏家資格課程の学生としてさらに勉強を続ける事になりました。テューバ科からその課程に進む学生は本校で史上初という事で、大変嬉しく思うと同時に気の引き締まる思いです。ドイツの歌劇場に就職する、という僕の目標に向かって、これからも引き続き精進して参ります。

「海外音楽研修」「海外音楽コンクール」助成対象者一覧

(敬称略)

助成対象者		助成対象者		助成対象者	
氏名	専攻	氏名	専攻	氏名	専攻
1991年度		1997年度(続き)		2005年度(続き)	
久住庄一郎	声楽	山崎貴子	ヴァイオリン	遠藤真理	チェロ
妻屋秀和	〃	田中貴子(b)*	〃	2006年度	
日紫喜恵	〃	早川りさ子*	ハーブ	江田雅子	声楽
江澤聖子	ピアノ	萩康司*	ギター	石原妙子	〃
大友純子	ヴァイオリン	伊藤寛隆*	クラリネット	白根卓史	ピアノ
千植村穂子	〃	1998年度		佐藤真貴子	〃
小井井紀子	〃	黒木香保里	声楽	朝吹貴子	ヴァイオラ
小松井久紀子	〃	増嶋起久子	〃	2007年度	
斎藤明子	ハーブ	伊藤のり子	ピアノ	中上恵理	声楽
斎藤大介	ギター	新藤垣裕子	ヴァイオリン	村江隼人	〃
鈴木孝規	トロンボーン	扇谷泰朋	〃	伊藤わか	ピアノ
鈴木優	打楽器	野倉雅秋	〃	平野水奈	チェロ
1992年度		島田真千子	〃	渡辺朝玲	フルート
1993年度		1999年度		2008年度	
佐野成宏	声楽	田邊織恵子	声楽	クリステン木実カイトマー	声楽
揚原祥彦	ピアノ	林中野正子	ピアノ	相田麻純	ヴァイオリン
志茂征彦	ヴァイオリン	中野田翔清	〃	塚嶋真慎	打楽器
田中晶太郎(a)	〃	大谷清玲子	ヴァイオリン	2009年度	
伊藤亮太郎	〃	瀬崎明日香	〃	盛田麻央	声楽
宮澤浩人	ヴァイオラ	田中水晶	〃	重島清章	〇
飛澤佐恵子	チェロ	清英理子(b)	〃	松本伸文	ピアノ
富安真理子	ハーブ	2000年度		三浦彰矢	ヴァイオリン
早川りこ	〃	宮部小牧	声楽	上野星平	フルート
梅津千恵子	打楽器	諸田真穂	ヴァイオリン	金子	クラリネット
1994年度		上野谷下	〃	2010年度	
横田みぎわ	声楽	神日藤すみれ	チェロ	高橋さやか	声楽
岡森直将	ピアノ	工藤すみれ	〃	重田清香	〇
九頭見香里	ヴァイオリン	シュレイアー弓子	ヴァイオリン	多田真彩	ピアノ
山本はづき	〃	中村創	ハーブ	酒井有美	ヴァイオリン
斎藤千貴	チェロ	藤井香	ギター	2011年度	
萩原井二	フルート	2001年度		小林大祐	声楽
岩井英二	テューバ	山本美樹	声楽	門間信樹	ピアノ
1995年度		川村文雄	ピアノ	坂本基里	ピアノ
樋口あゆ子	ピアノ	椎名雄一	オルガン	永正金寛	ヴァイオリン
M.A.アシュリー	ヴァイオリン	日下紗矢	ヴァイオリン	黒金	バス・トロンボーン
小清水	〃	三上亮	〃	2012年度	
磯田里子	〃	大石将紀	サクソフォン	竹下裕美	声楽
中横慎加	〃	2002年度		増田桃	ピアノ
赤松みやび	チェロ	柳原由香	声楽	松本佳乃	ヴァイオリン
松岡明	ハーブ	長崎結真	ピアノ	上村文乃	チェロ
1996年度		高田高橋	ヴァイオリン	2013年度	
大井浩明	ピアノ	高杉村香	ヴァイオリン	谷垣千沙	声楽
大森潤子	ヴァイオリン	高杉村香	〃	加藤彦大	〇
志本大進	〃	高杉村香	〃	佐藤淳子	ピアノ
志本美都	〃	高杉村香	〃	藤井理々	チェロ
玉井美幸	〃	高杉村香	チェロ	新村	フルート
石橋代修	トランペット	2003年度		2014年度	
1997年度		市原愛衣	声楽	熊田彩乃	声楽
小山麻穂	ヴァイオリン	山本智絵	ピアノ	宮野与志	ピアノ
上里英有	〃	山本重希	〃	浦山瑠衣	ヴァイオリン
清水有紀	〃	山本順子	ヴァイオリン	尾池美鷹	ヴァイオリン
大谷玲子	ヴァイオラ	2004年度		中島桃子	〇
安藤裕美	〃	富平安希	声楽	佐藤悠大	ピアノ
篠崎美生	チェロ	中脇有洋	ヴァイオリン	齊藤悠那	ヴァイオリン
古中山隆	トランペット	梁村香美	〃	藤原春	〃
1998年度		2005年度		麻生雄基	テューバ
泉増大	声楽	白木あ	声楽	(注)	
大場温子	ピアノ	金野隆	ピアノ	・*は海外音楽コンクール助成対象者	
高橋博奈	オルガン	佐野村	ヴァイオリン	(同助成は2003年度以降廃止)	
高川	ヴァイオリン	川横坂	チェロ	・(a)と(b)とは同名の別人	
				・〇は1年間助成を2回助成決定	